

オリンピック・パラリンピックにおける井之頭公園

パブリックビューイング設置についての武蔵野市医師会の見解

変異株が広がる中、オリンピック・パラリンピックにおけるパブリックビューイングの設置は会場周辺の地元が感染拡大の契機になることを心配するのは当然と考えます。

武蔵野市医師会としては、以下の3点から井之頭公園におけるパブリックビューイングの設置は困難であると判断し、反対いたします。

(1) ラストマイルにおける新型コロナウイルス感染症対策の難しさ

最寄り駅である JR 吉祥寺駅から会場の井之頭公園を結ぶルートは徒歩圏内であり、日常の利用客に加えて極めて多くの観客が利用されます。

この場合のルールとしては

①飛沫感染防止 ②3密の回避 ③感染リスクの高い行為を控える ④暑さ対策との両立等が重要です。しかしながら利用客の状況を考えると、飛沫感染防止のためのマスク程度はできるかもしれませんが、ソーシャルディスタンスを確保し、大声で話すなどの感染リスクの高い行為を控えることは難しく、加えて、真夏における会場までの暑さ対策は極めて困難であると断言できます。

(2) パブリックビューイングでの観戦における感染防止のための環境整備の難しさ

パブリックビューイングは大画面を前に観客同士が盛り上がるための空間です。その状況において、大声を出さず、ハグやハイタッチ、握手など触れ合うこと抜きで観戦できるとは考えられません。会場内でのソーシャルディスタンス確保や不特定多数が利用する場所の消毒の徹底は困難です。

(3) 体調不良者発生時の対応のための医療資源確保の難しさ

ラストマイルおよびパブリックビューイングの会場において熱中症をはじめとする体調不良者に対応するためには救護所の設置が必要です。日常一般診療に加えて新型コロナウイルスワクチン接種・PCR検査・発熱外来など極めて多忙な中地元医師会からの医師・看護師派遣は難しく、また救急搬送などに対応しなければならない事態は病院を含めた貴重な医療資源を逼迫させてしまう危険があります。

多くの方の集まるイベントにはそれなりの準備が必要ですが、以上の観点から現状ではそれに対応することが極めて難しいと考えます。